

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターぼけっとクラブあしかが		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		R7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	R7年12月1日		R8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19施設	(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象児のほとんどがぼけっとクラブを利用しているため、集団保育で習得してほしいことを療育に反映させやすい。	療育担当の職員から訪問支援児の様子を伺って助言するなどして、保育所や幼稚園で習得すべきことを療育に反映させている。	保育所等での課題を解決するために、指導員に様子を伝え、訪問支援児に必要な療育を行っていく。適宜、療育の指導及び助言を行っていく。
2	訪問支援員が5年以上児童発達支援に携わっているため、支援方法や手立てについての引き出しが多い。	子ども一人ひとりに対して分析を行い、その子にとって何が強みになるか考え、助言を行っている。	得意なこと、苦手なこと、どのような手立てが有効だったかを記録し、支援方法や手立ての引き出しをさらに充実させていく。
3	児童発達支援センターであるため、他の機関からの情報提供が得やすい。	訪問前に相談支援専門員から情報を伺う。また、訪問後は相談支援事業所や関係機関に記録を提出している。	今後も関係機関と連携を深め、引き続き情報の共有化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所の利用者以外からの訪問希望があった場合、対応が困難である。	人員が限られているため、当事業所外からの訪問希望は受け付けていない。	訪問先において、訪問支援児以外の子の対応を求められた場合、答えられる範囲で支援方法を伝えたり、必要に応じて当事業所の紹介を行ったりしている。
2	訪問支援員が1名のため、業務の改善が難しい。	業務を1名で行っているため、他者のチェックが入りにくい状況である。	児童発達支援責任者と連携、相談しながら業務の改善や精査をしていく。
3	訪問支援員の頻度を増やすことができない。	訪問先が多いため、訪問頻度はおよそ2か月に1回となっている。	訪問先の様子から、必要に応じて訪問回数を増やしたり減らしたりするなどの処置を行っていく。